

第6次長期総合計画の策定に関する意見への回答

募集期間：令和3年4月14日（水）～令和3年5月13日（木）
（郵送の場合は令和3年5月13日（木）必着）
提出方法：提出先への書面持参（代理可）、郵便、ファクシミリ、電子メール
提出先：角田市役所総務部まちづくり政策課企画調整係（土日祝日は閉庁日です。）
（問合せ先）住所 〒981-1592 角田市角田字大坊4-1
電話 0224-63-2112（電話での意見提出はできません。）
FAX 0224-62-4829
E-mail machidukuri@city.kakuda.lg.jp

留意事項：(1) 寄せられた意見の内容は、総合計画の策定に向けた審議を行うための参考資料として、次回開催予定の角田市長期総合計画審議会において報告します。
(2) 審議会への報告後、意見の概要及びそれに対する市または審議会の考え方を市ホームページ上で公表します。ただし、住所、氏名など、個人が特定され得る情報の公表はいたしません。

（意見及びその理由）

地域の人口減少についてはそれ自体を問題視することよりも、人口が減ることにより社会インフラや暮らしが維持しにくくなることが課題となります。市民力とは、「市民が自発的に地域の課題克服に取り組む力」であると思いますので、人口減で少人数となっても一人ひとりの暮らしや個性が尊重される地域づくりを民間が主体的に取り組むことが市民力の醸成に繋がります。

角田市若手精鋭職員の内部・外部環境分析（SWOT分析）によれば、角田の強みの中に地域経済をけん引する2次産業（製造業）とありますが、グローバルが拡大している経済環境においては、コロナ感染等予期できぬ市場環境変化により縮小や撤退のリスク等で工場誘致の経済効果への期待は多くはないと見られます。むしろ、「高水準の農業の出荷額」という強みを活かし、角田の機会となるSDGsを活用した持続的発展やデジタル化による技術革新等を踏まえた「農産物のブランド力強化による生産性向上」と「付加価値の高い農業関連新産業の創出」に軸足を向けるべきかと存じます。

また、若者が角田に住み続けたくない理由として、「若者が地元への愛着が少ない」「若者が働きたい職場がない」ことがあげられていますが、地元由来したエンターテインメント（娯楽性）や、やりがいのある仕事（新産業）を前例主義にとらわれない行政がバックアップし民間主導で創出推進していけば、活路は開かれることをご提案します。

（意見に対する市または審議会の考え方等）

貴重なご意見をいただき誠にありがとうございます。

はじめに、地域の人口減少に伴う課題に関するご意見につきまして、人口減少が進み、財政状況が厳しさを増す中において、如何にして持続可能なまちづくりを実現していくかが、今後の重要課題であると捉えております。この課題解決のために、最も重要なのが「市民力の醸成」であり、それを発揮するための環境づくりと併せて、第6次長期総合計画において方向性を示していきたいと考えております。

次に、農業の振興に関するご意見につきまして、ご指摘のように、今後予想されるデジタル技術を活用したスマート社会（Society5.0）の進展や新型コロナウイルス感染症の蔓延による予測不可能な先行き等を考慮し、様々な機会を活かすことは、本市のさらなる農業振興にとって重要であると考えております。また、「農産物のブランド力強化・生産性向上」や「農業関連新産業の創出」においても、民間の活力が重要であり、その市民力を引き出し、支援することについて、第6次長期総合計画にも明確に位置付け、取り組んでいきたいと考えております。なお、本市の産業の構成割合からも、2次産業や3次産業に対する支援・育成は、持続可能なまちづくりにとって不可欠なものであり、引き続き取り組んで参ります。

最後に、若者の定住に関するご意見につきまして、人口減少・少子高齢化といった課題への対策として、また、本市が持続可能なまちづくりを目指していく上で、若者の定住はなくてはならない重要なポイントと考えております。子育て支援の推進や教育環境の充実など、若い世代が住みやすい環境づくりと併せて、ご提案いただきました「地元由来したエンターテインメント」、「民間主導でのやりがいのある仕事の創出へのバックアップ」といったご意見も参考に、若者を惹きつける魅力のある施策を検討して参ります。